

ぐんま絹遺産

通しNo.	名称	種別	登録年月日	所在地	Map No.
①	馬場重久の墓	県絹遺産登録	平成 23.7.14	吉岡町大字北下字山下	F-3
②	蚕神社の石碑	県絹遺産登録	平成 24.2.6	吉岡町大字北下字北発地岡	F-2
③	稚産靈神の石碑	県絹遺産登録	平成 24.2.6	吉岡町大字陣場字中御所	F-4

史跡・文化財

通しNo.	名称	所在地	備考	Map No.
①	小倉の猪土手	吉岡町大字小倉字上蟹沢	榛名山東麓から南麓にかけて続く獣よけの土塁。 7世紀代の大古墳群で30基程が現在でも確認できる。	E-2
②	小倉古墳群	吉岡町大字小倉字上蟹沢他一帯		E-1
③	智明房館跡	吉岡町大字小倉字後弥陀	中世仏門に入った園田太郎成家が智明房と改め、堤家のある場所に住んでいたと伝わる。	E-1
④	産泰神社の板碑	吉岡町大字小倉字鳥居木	ご神体阿弥陀三尊が刻まれている。	E-1
⑤	伊香保街道野田宿	吉岡町大字上野田字町南・町裏	伊香保街道の宿場である。平成18(2006)年から屋号看板が設置された。	E-2
⑥	東福寺の半鐘	吉岡町大字上野田字西原	正徳2(1712)年倉林長兵衛の作で、奉献の趣旨等が刻まれている。	E-2
⑦	原澤文仲の墓	吉岡町大字上野田字西原	紀州の華岡青洲と並び賞された外科医と言われている。	E-2
⑧	森田梅園・梅子・梅孫の墓	吉岡町大字上野田字西原	本陣家に生まれ、野田用水工事や地域の教育に尽力した。梅園は書家、梅子・梅孫は狩野派の画家としても有名。	E-2
⑨	瀧泉神社と袂石	吉岡町大字上野田字宮東	古い伝説を持つ巨石がある。	E-2
⑩	野田堰の石樋	吉岡町大字上野田字小井出	明治27(1894)年に敷設された全長約3kmに及び灌漑用石樋。	D-2
⑪	万葉の歌碑	吉岡町大字上野田字井堤	「伊香保るの…」と万葉集に詠まれたのは滝沢川の南岸であっただろうといわれている。	C-1
⑫	華蔵寺の客殿	吉岡町大字下野田字森下	奈佐勝郎他多くの文人がここに逗留したという。	F-2
⑬	武蔵又左衛門の墓	吉岡町大字下野田字石田	二ッ岳の林場論争にかかわった下野田村の名主。	F-2
⑭	桃井城跡	吉岡町大字南下字大蔵	南北朝時代の武将桃井直常が築城したと伝えられる。頂上部に前方後円墳がある。	E-3
⑮	大蔵不動尊	吉岡町大字南下字大蔵	不動堂の厨子の内部に木造の不動明王が安置されている。	E-3
⑯	桃井塚	吉岡町大字南下字下ノ八幡	桃井直常と奥方の墓と伝えられ、土地改良工事により現在地に移した。	F-3
⑰	桃井の池	吉岡町大字南下字下ノ八幡	桃井直常が誕生した時に池の水を産湯に用いたと伝えられる。	F-3
⑱	石関黒山の墓	吉岡町大字陣場字下陣場	儒学者太田錦城に学び前橋藩校教授を勤めた。	F-4
⑲	石関黒山の顕彰碑	吉岡町大字陣場字中御所	小出神社境内に建立された。	F-4
⑳	中島宇右衛門の墓	吉岡町大字大久保字下町	大久保村の名主で文人であり、寺子屋を開き子弟を教育した。	H-4
㉑	大泉寺の句碑	吉岡町大字大久保字下町	碑文は「鐘つかぬ里は何をか春の暮」の芭蕉句碑である。尚、芭蕉は上州には来ていない。	H-3
㉒	白雄と岱路の句碑	吉岡町大字大久保字中町	加舎白雄は信州上田出身の俳人で、国府村の金井岱路は門下生。	H-3
㉓	佐藤家の句碑	吉岡町大字大久保字三津屋	碑文は「舞や古礼裳満多我登母奈羅数」の芭蕉句碑である。尚、芭蕉は上州には来ていない。	G-3
㉔	十石塚	吉岡町大字大久保(字十石塚)	大窪太郎がこの付近に住み、十石塚に埋葬されたと伝えられる。	G-2
㉕	木戸の跡	吉岡町大字大久保字木戸	鎌倉街道の村境に設けてあったと思われる。	F-2
㉖	木暮三右衛門の墓	吉岡町大字漆原字辻下	関孝和から7代目にあたる和算家。総社神社に葬額がある。	H-3
㉗	矢落観音	吉岡町大字漆原字上ノ原	長松寺境内にあり船尾山縁起に係る古い伝説がある。本尊は十一面観音。通称「ざる観音」。	G-2
㉘	川原田不動尊	吉岡町大字漆原字川原田	江戸中期の石造仏で、利根川の洪水防止のため地域で祀られている。	H-3
㉙	長塩屋敷跡	吉岡町大字漆原(字十二廻)	中世武士の長塩氏屋敷跡と伝わる。土塁の跡がのこる。	H-2
㉚	長松寺の仏像	吉岡町大字漆原字上ノ原	本尊は阿弥陀三尊。その他に釈迦三尊及び境内に石船地藏がある。	G-2

令和6年2月1日現在



道祖神(大久保字清祭 吉岡町児童館庭)

吉岡町のご案内



吉岡町章の紹介

吉岡町の顔文字を中心に、古代文化を象徴して鉄鐵を三方に図案化しています。三個の鐵は上毛三山を表現するとともに、三つの前進方向を示しています。『明るい郷土』、『住民福祉』、『環境整備』を意図するものです。町の木「イチチョウ」・町の鳥「ひばり」・町の花「さく」



文化庁では、文化財愛護運動をおし進めるための旗じるしとしてシンボルマークを定め、昭和41年5月30日の文化財保護法公布記念日に発表しました。このシンボルマークは、ひろげた両手のひらのパターンによって、日本建築の重要な要素である斗拱(組みもの)のイメージを表わし、これを三つ重ねることにより、文化財という民族の遺産を過去、現在、未来に渡り永遠に伝承していくという愛護精神を象徴したものです。

お願い

県指定史跡南下古墳群は安全確保のため、石室内への立入りを制限しています。(文化財センター展示室で石室内の解説動画をご覧ください)

問合わせ先

吉岡町文化財センター(文化財事務所)

【所在地】〒370-3604 群馬県北群馬郡吉岡町大字南下1322-12
【電 話】0279-54-9443 【FAX】0279-25-7765
【休館日】月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、年末年始
【開館時間】 午前9:00～午後4:00

令和6年2月発行

令和版

吉岡町文化財マップ

ふるさとの歴史散策



吉岡町文化財マップ掲載一覧表

※文化財を見学する際は、所有者及び管理者の承諾を得てください。

指定文化財

※県指定以外は吉岡町指定

通しNo.	名称	種別	指定年月日	所在地	Map No.
①	船尾滝	名勝	昭和 63.3.23	吉岡町大字上野田	A-1
②	三国街道の一里塚	史跡	昭和 57.12.21	吉岡町大字上野田字屋敷裏 365-2	F-1
③	桃井館の欄間	重要文化財	昭和 57.12.21	吉岡町大字上野田字田中 435-2	F-2
④	華蔵寺第八世亮行の墓	史跡	平成 12.11.22	吉岡町大字下野田字谷地 1055-1	F-2
⑤	華蔵寺の石造弁財天	重要文化財	平成 13.10.22	吉岡町大字下野田字森下 990-1	F-2
⑥	華蔵寺獅子圖書庫蔵書	重要文化財	平成 12.11.22	吉岡町大字南下字大蔵 187	F-2
⑦	滝沢古墳	重要文化財	平成 5.9.1	吉岡町大字下野田字宮下 559	F-2
⑧	下ノ八幡宮の石祠	重要文化財	平成 13.10.22	吉岡町大字南下字下ノ八幡 847-3	F-3
⑨	金剛寺の宝篋印塔	史跡	平成 5.9.1	吉岡町大字南下字大蔵 187	E-3
⑩	大蔵獅子舞	重要無形文化財	平成 15.5.22	吉岡町大字南下字大蔵 180	F-3
⑪	馬場重久の墓	県指定史跡	昭和 27.11.11	吉岡町大字北下字山下 329-1	F-3
⑫	下ノ八幡宮獅子舞	重要無形文化財	平成 15.5.22	吉岡町大字南下字下ノ八幡 848	F-3
⑬	南下古墳群 (A～F号古墳)	県指定史跡	令和 5.9.8	吉岡町大字南下字宮代 1315-1	F-3
⑭	三宮神社本殿(御神体を含む)	重要文化財	昭和 63.2.22	吉岡町大字大久保字宮 1-1	G-3
⑮	清祭三宮神社獅子舞	重要無形文化財	平成 15.5.22	吉岡町大字大久保字宮 1-1	G-3
⑯	三宮神社太々神楽 三楽講	重要無形文化財	平成 23.11.29	吉岡町大字大久保字宮 1-1	G-3
⑰	佐渡街道の道しるべ	重要文化財	昭和 57.12.21	吉岡町大字大久保字駒寄 2338-2	G-3
⑱	三津屋古史跡	県指定史跡	平成 7.3.24	吉岡町大字大久保字三津屋 2037-1	G-3
⑲	森田家 主屋・書院・長屋門	重要文化財	令和元. 5.30	吉岡町大字上野田字町裏 677	E-2

石造物

※所在地の()は消滅した小字

通しNo.	名称	所在地	備考	Map No.
①	小倉地藏尊	吉岡町大字小倉字地藏堂	坐像の地藏尊で、当地の地名になったという。	F-1
②	六地藏	吉岡町大字小倉字築地	文化7(1810)年小倉寺が廃寺になったため当地に移転した。	E-1
③	上野田の道祖神	吉岡町大字上野田字町尻	元治元(1864)年三国街道と伊香保街道の交差点に建つ道祖神。	F-2
④	大黒様	吉岡町大字上野田字町南	盗難により再建したが残り、2体祀られている。	E-2
⑤	町南の石造物	吉岡町大字上野田字町南	薬師、地藏尊、大青面金剛夜叉等多数あり。	E-2
⑥	正福寺の地藏尊	吉岡町大字下野田字森下	元禄16(1703)年かつては縁日があった。その他の石造物もあり。	F-2
⑦	華蔵寺の石造物	吉岡町大字下野田字森下	無幻書の庚申塔(百庚申)他、石造物あり。	F-2
⑧	森下の馬頭観音	吉岡町大字下野田字森下	4体あり、その内3体は江戸中期のものである。	F-2
⑨	石田の石造物	吉岡町大字下野田字石田	大日如来他1体。刻字の「内手」は消滅小字。	F-2
⑩	畑中の道祖神	吉岡町大字北下字畑中	安政4(1857)年自然石に刻まれ意匠をこらした双体道祖神。	E-3
⑪	木戸の地藏尊	吉岡町大字南下字木戸	寛政9(1797)年幼童の名が刻まれ、命の尊さを教えている。	F-3
⑫	聖天宮	吉岡町大字南下字長山	石祠。これを潜ると麻疹が治るとされる。	F-3
⑬	宮代の庚申塔	吉岡町大字南下字宮代	明和4(1767)年縦高2m余りの文字塔。現在、所在不明。	F-3
⑭	陣場の常夜燈	吉岡町大字陣場字中御所	文政5(1822)年三国街道沿いにあったものを小出神社に移転。	F-4
⑮	薬師山の石造物	吉岡町大字陣場字西原	薬師如来を祀る石祠や元禄10年の庚申塔等。	F-3
⑯	寺下の庚申塚	吉岡町大字大久保字善徳	新田の刻字から大久保の開発の様子がわかる。	H-4
⑰	大泉寺の不動尊	吉岡町大字大久保字下町	元禄駿宗大寺の本尊を移し祀ったもの。	H-3
⑱	田端の道祖神	吉岡町大字大久保字田端	双体道祖神3体。内1体は享和3(1803)年。	G-3
⑲	田端の十王様	吉岡町大字大久保字田端	十王様は9体ある。	H-3
⑳	子育て地藏	吉岡町大字大久保字三津屋	2体あり、向かって右は元禄15(1702)年念仏供養とあり、左は子の成長を願う女性の名がある。	G-3
㉑	東漸寺の馬頭尊	吉岡町大字大久保字清祭	自然石に梵字を刻んだ馬頭尊は珍しい。	F-2
㉒	清祭の道祖神	吉岡町大字大久保字清祭	天明元(1781)年から嘉永5(1852)年の間に作られた双体1体と文字塔3体の道祖神。	F-2
㉓	長松寺の石造物	吉岡町大字漆原字上ノ原	薬師、子育て地藏がある。	G-2
㉔	四方塔	吉岡町大字漆原字北原	安政2(1855)年四面に名尊称を刻んだ如意輪観音塔。	G-2
㉕	大町の石幢	吉岡町大字漆原(字十二廻)	貞享元(1684)年石幢と輪廻車を組み合わせた供養のためのもの。	H-2
㉖	洪水除け観音	吉岡町大字漆原字桑原田	昭和25(1950)年利根川の洪水除けを祈願して建立。	H-2
㉗	金剛寺の五輪塔群	吉岡町大字南下字大蔵	中世桃井氏関連と伝えられる五輪塔群。	E-3
㉘	釜屋の十王様	吉岡町大字南下字大蔵	閻魔像に寛政10(1798)年と刻まれた無量寺跡の十王仏。	E-3
㉙	丸山の五輪塔	吉岡町大字南下字丸山	中世桃井氏に関わるものと推察される。	E-4

令和版
吉岡町文化財マップ
ふるさとの歴史散策

指定文化財



地図:A-1
1 船尾滝
船尾山（吾妻山）西北端にあり、落差約72mの名瀑である。千ばつ時には、龍神に雨乞いをしたと伝えられる。



地図:F-1
2 三国街道の一里塚
上野田の一里塚は起点の高崎から数えて四里である。榎の樹下には、江戸時代後期に建立された庚申塔が2基ある。



地図:F-2
3 桃井館の欄間
鎌倉時代初期に桃井八郎が居住したとされる桃井館の居間と客間の欄間である。精緻な透かし彫りの牡丹、葡萄と栗鼠の文様が配されている。（非公開）



地図:F-2
4 華蔵寺第八世亮衍の墓
華蔵寺第八世亮衍の墓である。亮衍は、元文3（1738）年に華蔵寺に生まれた。稀代の蔵書家として知られ、実弟光流（角田無幻）と京都・聖護院に出仕した。



地図:F-2
5 華蔵寺の石造并財天
修験の寺として知られた法雲山華蔵寺の山門左脇の池中に祀られている。『宝永5年』（1708）と刻書され、鬼面をもつ石祠の傑作である。



地図:F-2
6 華蔵寺獅子圖書庫蔵書
華蔵寺第八世亮衍（1738～1806年）が創設した書庫で、「聖教類（仏教関係書）」を含む、貴重な典籍や古文書など多くの資料を収蔵している。（非公開）



地図:F-2
7 滝沢古墳
関越自動車道建設に伴い発掘調査され、現在地に移築された。7世紀中頃の墳墓で、主体部は割石と削石で積まれた横穴式石室である。



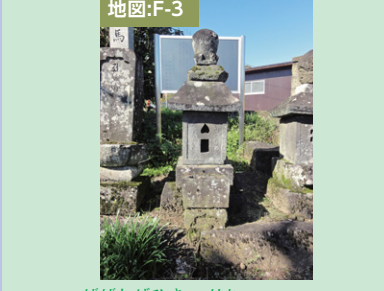
地図:F-3
8 下八幡宮の石祠
本殿の西北裏に祀られている。棟の鬼面は向って右が18cmで、県下では屈指の大きさである。銘は「寛永十式」（1635）年とあり、能面のような顔立ちである。



地図:E-3
9 金剛寺の宝篋印塔
金剛寺跡の畑にあったが、現在不動堂境内に移されている。『浄眼大禪定門應永十三年』（1406）と刻まれている。桃井直常の供養塔と伝えられている。



地図:F-3
10 大敷獅子舞
大敷の獅子舞は、大永3（1523）年桃井直常が守刀とともに、八幡神社に奉納したのが始まりといわれる。稲荷流佐々良獅子舞で一人立ち三頭連れの舞である。



地図:F-3
11 馬場重久の墓（県指定史跡）
寛文3（1663）年北下で生まれ、農具や桑の品種改良等に努めた。正徳2（1712）年に著した「蚕養育手鑑」は、県内初の養蚕手引書といわれる。



地図:F-2
2 蚕神社の石碑
寛文3（1663）年北下で生まれ、農具や桑の品種改良等に努めた。正徳2（1712）年に著した「蚕養育手鑑」は、県内初の養蚕手引書といわれる。



地図:F-4
3 稚産霊神の石碑
寛文3（1663）年北下で生まれ、農具や桑の品種改良等に努めた。正徳2（1712）年に著した「蚕養育手鑑」は、県内初の養蚕手引書といわれる。



地図:F-3
12 下八幡宮獅子舞
下八幡の獅子舞の起源は、慶長年間（1600年頃）よりも古いと考えられている。流派は関白竜天流である。舞は勇壮活発で、格調高いものである。



地図:F-3
13 南下古墳群（県指定史跡）
南下地区に分布している古墳群の総称である。6世紀後半から7世紀末の古墳群である。現在6基存在するが石室を確認できるのは5基である。



地図:G-3
14 三宮神社本殿（御神体を含む）
大久保の鎮守として天平勝宝2（750）年の勧請と伝えられる。御神体の十一面観音像は、中世末期の一本彫り立像である。獅子舞や太々神楽が、春季祭礼で奉納される。



地図:G-3
15 清祭三宮神社獅子舞
天正年間からあったと伝えられる獅子舞で、頭が毛獅子で作られているのが特色である。稲荷流佐々良獅子舞で氏神三宮神社の祭典に奉納されてきた。



地図:G-3
16 三宮神社太々神楽 三楽講
三宮神社の春季祭礼で奉納されている。昭和22（1947）年に復活された、吉岡町唯一の神楽である。演目は国の成り立ちや、農耕と関わるものである。



地図:G-3
17 佐渡街道の道のしるべ
佐渡奉行が往来したのでその名がある。伊香保街道との分岐点に建立された。『右桑ちご志ぶ川』「左いかほ ミづさハ」としてされ、寛政十二年（1800）の年号が刻まれている。



地図:G-3
18 三津屋古墳（県指定史跡）
八角形墳は7世紀中頃以後、主に天皇陵に採用された形式といわれ、全国でも10例程しか知られていない。本古墳は7世紀後半と考えられる。本来の姿に復元整備され、一般公開されている。



地図:E-2
19 森田家 主屋・書院・長屋門
【主屋】森田家は伊香保街道沿いにあり、酒造業、問屋などを営み、名主・本陣を務める豪農。江戸時代中期の築造。三本溝の鴟尾、大黒柱（太い柱）がないなど古い建て方をしている。



地図:E-2
【書院】江戸時代後期の築造。上段の間に違いの欄の襖絵に狩野派の「狩野了承」銘が見られ、次の間に床の間の壁に「オトメヌリ」という独自の模様が左官仕上げで施す。県内屈指の書院。



地図:E-2
【長屋門】現在のものは、築約100年大正時代後期に建てられた。桁行約27m。壁は白漆喰なまこ壁が美しく、正門の扉は樺造りの観音開きで威厳あるたたずまい。

ぐんま絹遺産

ぐんま絹遺産

地図:F-3
11 馬場重久の墓（県指定史跡）
寛文3（1663）年北下で生まれ、農具や桑の品種改良等に努めた。正徳2（1712）年に著した「蚕養育手鑑」は、県内初の養蚕手引書といわれる。

地図:F-2
2 蚕神社の石碑
寛文3（1663）年北下で生まれ、農具や桑の品種改良等に努めた。正徳2（1712）年に著した「蚕養育手鑑」は、県内初の養蚕手引書といわれる。

地図:F-4
3 稚産霊神の石碑
寛文3（1663）年北下で生まれ、農具や桑の品種改良等に努めた。正徳2（1712）年に著した「蚕養育手鑑」は、県内初の養蚕手引書といわれる。